

ニラの出荷調整環境と支援体制

高知県のニラを取り巻く環境

高知県はニラの生産量が日本一ですが、一方で高齢化によりニラの出荷調整作業を行う人が減少しています。

高知県のニラの収穫量(生産量)は、
2011年から2020年の10年間で14.4%の減少、
作付面積は8.9%の減少

このままでは産地の維持が困難

10年後のニラ需要予測

10年後には、営農者の高齢化により離農が加速し、人口の減少率を作付面積・収穫量の減少率が上回ることで、**ニラの供給が不足**と考えられます。

【全国の出荷不足量】

収穫量：17,100 t 作付面積：600 ha

【高知県の出荷不足量】

収穫量：4,185 t 作付面積：75 ha

※出典：地元JAの農家アンケート資料より

産出額80億円の維持を下支えする **シミズ・アグリプラス（株）** の設立

※出典：中国四国農政局・令和2年 高知県・ニラの産出額

- 高知県農業振興部中央東農業振興センター や JA高知県香美地区香美営農経済センターと連携し、地域の農業人材の不足状況を調査の上、事業規模・施設規模を決定し、**そぐりセンターにニラを持ち込むだけで出荷までの作業をワンストップで行える仕組みを構築**することで農家の負担を軽減しました。

※現在、シミズ・アグリプラスは、地元JAに事業譲渡しています。

ニラの出荷調整（そぐり作業）とは

○「そぐり」作業とは、収穫したニラの古い葉や傷んだ葉を除去し、鮮度保持を行う作業です。



従来：そぐり手が手作業で調整



機械化することで効率的に調整

農家の担当作業のうち、「**そぐり～計量・結束**」の作業が**約7割**を占めています。これらの作業は、高齢化による人手不足により営農者の負担となっています。

「**そぐり～計量・結束**」の作業を**機械化**し、民間が受託することで、農家の作業負担軽減と人手不足に対応し、**産地の維持に貢献**しました。

ニラの出荷調整 効率化支援活動の効果

1

出荷量維持が困難な農家の出荷調整作業を代行

- ・そぐり手の離職などで出荷量維持が困難な農家の出荷調整作業を代行
- ・約70軒の農家が利用し、出荷量の確保に貢献

2

刈り捨てていたニラの商品化

- ・従来、人手不足で刈り捨てていた（出荷できなかった）ニラを商品化
- ・約60トン/年の商品化・流通（受託量の約30%）

3

地域雇用の創出

- ・延べ35人の雇用を創出

4

耕作面積を拡大する農家の出現

- ・農家が出荷調整作業から解放されたことで、耕作面積拡大に時間を割けるようになった

5

新規就農者・転作農家がニラ栽培を選択可能に！

- ・そぐり手の確保がネックにならなくなり、ニラの生産に参入しやすくなった
- ・ニラの生産の参入しやすくなり、新規就農者、転作農家が増加

6

地域への教育・広報活動

○ 地域の小学校の社会科見学に対応

- ・JAと連携し地域の小学校の社会科見学に対応（香南市立 野市小学校、4年生）

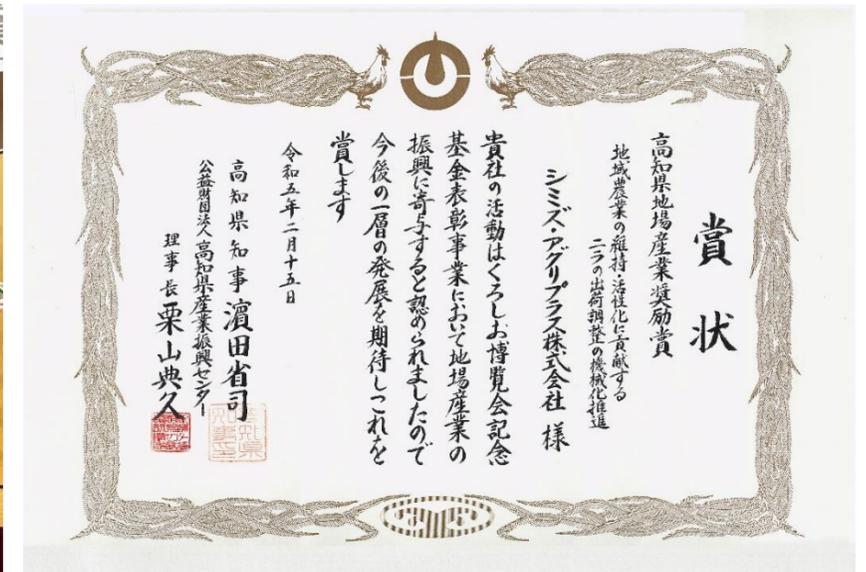
○ TV取材による高知県農業のPR

- ・BSテレ東「マネーの学び」
- ・RKC高知放送「こうちeye」で活動が取り上げられた

ニラ出荷調整の効率化支援に関する表彰等について

「第37回高知県地場産業大賞奨励賞」の受賞

当社子会社のシミズ・アグリプラス（株）は、基幹産業である農業を下支えする活動が評価され、令和5年2月に高知県地場産業大賞奨励賞を受賞しました。この受賞は、企業や県、JA、農家との連携が高く評価されたものであり、地元のTVや新聞で取り上げられました。



「こうちSDG推進企業」への登録

当社子会社のシミズ・アグリプラス（株）は、高知県が推進するSDGs（持続可能な開発目標）活動に賛同し、推進企業として登録されました。気候変動・教育・福祉等の分野で地域と協力し、活動を推進しました。



社会科見学の様子

そぐりセンターの取り組みは、一般社団法人 土地改良建設協会の会報「土地改良」326号（2024年7月号）にも当社社員のレポートが掲載されています。https://dokaikyo.or.jp/back_number/kaishi_new/326t_04.pdf